

千葉市図書館ビジョン 2040 【概要版】 ～知の循環をつくり、未来へつなぐ知を生み出す「知の拠点」～

序章(ビジョン策定の基本的な考え方)

- (1) 策定の趣旨
- ・インターネットの普及→図書館の在り方の変革
 - ・人口減少、デジタルトランスフォーメーションの進展→新たな図書モデルへの転換準備

図書館が地域の「知の拠点」として、豊かな市民生活や本市の発展に貢献できるよう
実現したい図書館の未来像を描き、逆算する形で取り組むべき施策を示す指針として策定

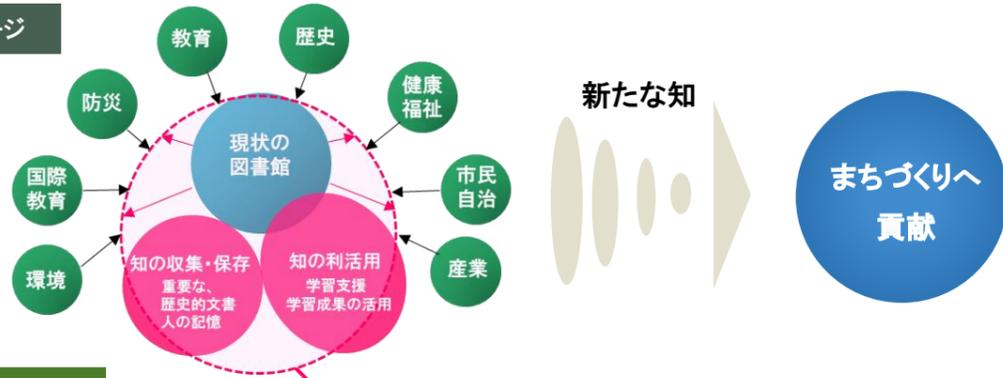
- (2) 目標年次 2040年
- (3) 位置付け
- ・本市計画行政の個別部門計画
 - ・実施計画への位置付けや予算編成において実施時期や事業量を定める。
- (4) 体系
- ・図書館網計画、読書環境整備計画及びサービスプラン 2010 は廃止。
 - ・子ども読書活動推進計画は、本ビジョンを踏まえ第4次計画等を策定
- (5) 構成
- 序章 ビジョン策定の基本的な考え方
本編 基本理念、将来像、基本目標、施策展開
資料編 2040年ころまでの社会構造の変化、千葉市図書館の状況 等

本編 1 基本理念・図書館の目指すべき将来像

基本理念

地域における「知の拠点」として、果たすべき役割を追求し、多くの市民に様々な「知の体験」を提供することを通じて、
心豊かな市民生活の実現と千葉市の持続可能な発展に貢献する

イメージ



将来像

「知の拠点」として果たすべき役割
市民の知的好奇心を刺激し、ワクワクする図書館

知の循環をつくり、未来へつなぐ知を生み出す「知の拠点」



- みんなの「知」が
集まる
- 市民がまちづくりなどの活動などから得られた、
将来のまちづくりの課題を解決する「知」が集まります
- みんなの「知」が
見える
- 集められた「知」は、「知の拠点」から発信され、
誰もがアクセスできます
- みんなの「知」が
つながる
- 市民、学校、企業、団体、あらゆる主体の「知」が
つながり、相互理解や新たな「知」が生み出されます

本編 2 基本目標、施策展開の柱・方向性

基本目標 1 特長のある「知の拠点」の実現

(1) 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

- 未来へつなぐ「知」のアーカイブ計画の作成とインタビューなどによる「知」の収集、デジタル化と提供プラットフォームの構築（「知」の見える化）
- 千葉市の歴史的文書の整理・保存など
- 未来へつなぐ「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築

(2) 知をつなげるプラットフォームなどの構築

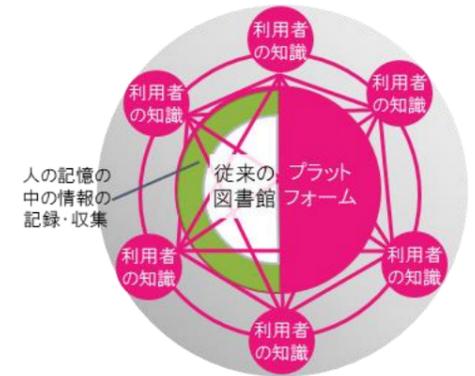
（多様な主体による知の創出・活用）

- SNSを活用した知識の交流を促す仕組みの構築
- 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供
- 市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進
- 生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化

(3) 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

- こども読書活動推進計画の策定
- こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実
- 学校・学校図書館との連携・協力の推進

知識の交流イメージ



基本目標 2 新たな時代に適応する運営の実現

(1) 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

- 利便性の高い場所への図書の取次を行う窓口や返却ポストなどの設置
- 開館日・開館時間の最適化
[利用需要に応じ、民間機能を活用した図書の取次を行う窓口などの設置]
- 障害のある市民や外国籍の市民など誰もが利用しやすい環境の充実
- 自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化

(2) 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

- 中央図書館の機能強化
[特長のある知の拠点の中心施設としての機能整備（ミーティングルーム等の整備など）]
- 地区図書館・地区図書館分館の再編
[一部地区図書館は特定分野の専門的な資料を揃えた図書館に再編、地区図書館分館のサービスポイント化]
- 図書資料等の保存・物流機能の一元化
[保管機能と物流機能を一元的に担う新たな拠点の整備と運営の民間機能の活用]
- 図書館施設の老朽化の対応
[土気図書室、白旗分館、若葉図書館など老朽化施設の再整備（複合化、拠点性のある商業施設の活用等）]
- 窓口運營業務の民間機能の活用
[施設の再整備後の窓口運營業務の民間委託化]

本編 3 ビジョンの実現に向けて

(1) 基本的な考え方

- 図書館職員の意識変革
- 柔軟・即応的に挑戦する組織への変革
- 選択と集中による経営改革の推進

(2) 推進体制

- (3) ビジョンの検証・見直し およそ5年ごと